お問い合わせ・アクセスマップ

公立大学法人

神奈川県立保健福祉大学

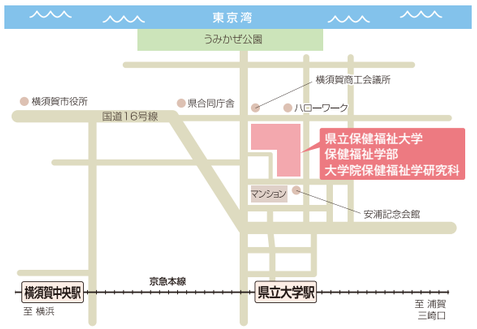
KANAGAWA UNIVERSITY OF HUMAN SERVICES

〒238-8522 神奈川県横須賀市平成町1-10-1

https://www.kuhs.ac.jp/

代表電話・総務課	046-828-2500
財務課（授業料）	046-828-2513
教務学生課（入試・学生生活）	046-828-2525
企画・地域貢献課	046-828-2530

県立保健福祉大学保健福祉学部・大学院保健福祉学研究科



公立大学法人　神奈川県立保健福祉大学

大学院保健福祉学研究科

KANAGAWA UNIVERSITY OF HUMAN SERVICES
GRADUATE SCHOOL

GUIDEBOOK 2024

県立保健福祉大学の校章

大学のミッションである
ヒューマンサービスの実現と、
未来に伸びてゆく学生の若さ、
活力を表現しています。

ごあいさつ

理事長
大谷 泰夫

急速に進む少子高齢化に伴う社会の変化は、新たな問題や課題を生み出しています。本学では、こうした変化や新しい課題に対して積極的に対応していくことが大学としての使命であると認識しています。

保健福祉学研究科では新たな問題への対応力を備え、保健・医療・福祉分野のリーダーとして地域社会を牽引する人材を育成します。

また、本学では個々の専門性を高めるとともに、保健・医療・福祉に関わる広い理解をもって、他領域とも連携・協働できる力を身につけることができるよう、異なる領域の専門職同士が共に学ぶ機会を提供しています。これは、「ヒューマンサービス」という本学のミッションのもと、「人（ヒューマン）」を深く理解し、人の温かみを失わない保健・医療・福祉サービスを提供できる高度専門職を輩出したいと考えているからです。

現場での実践と研究の循環の中で生み出された成果を社会に還元していく、その志を持った教職員と学生の仲間が本学でみなさんをお待ちしています。

学長
村上 明美

わが国では少子高齢化が急速に進み、すでに人口減少が始まっています。世界では紛争危機により国家間秩序は揺らぎ、気候変動に関連して大規模災害が多発する等、人々の健康や生活を脅かす多様な社会問題が顕在化しています。

本学はヒューマンサービスをミッションに掲げ、保健・医療・福祉の連携と総合化、生涯にわたる継続教育の重視、地域貢献を基本理念としています。保健・医療・福祉にかかわる専門職は、いのちの誕生から終焉にいたるまで、「ひと」の健康や生活に深くかかわり、人々の安寧を守る活躍が期待されています。

大学院は、専門分野における研究能力や高度専門職業人に必要な卓越した能力を修得する高等教育機関です。保健福祉学研究科では、健康や生活にかかる課題について広く学識を身につけ、研究に取り組んでいただきます。本学での学びがヒューマンサービスの実現にどのようにつながるかを常に意識して、主体性をもって創造的に探究してください。

だれも排除されることなく、ひとりひとりが大切にされ、その人らしく生きられるよう、ヒューマンサービスの実現に向けたアカデミックな活動を期待します。

保健福祉学研究科長
鈴木 志保子

保健福祉学研究科は、博士前期課程が2007年に、博士後期課程が2017年に開設されました。現在、高度専門職業人としてヒューマンサービスをミッションに掲げて育成した修了生たちは、保健・医療・福祉分野における次世代の高度実践者・教育者・研究者となり社会で活躍しています。

博士前期課程では、看護学・栄養学・社会福祉学・リハビリテーション学の各領域における専門的な研究の基礎を身につけることにより、知識を深め、課題を探求していく能力を培うことを基本としています。

博士後期課程においては、各領域における専門的な研究を基盤として、保健福祉学の発展に寄与する先端的な研究成果を産出できる研究者の養成を行っています。また、専門性の壁を乗り越え、保健福祉学の研究領域を構築し、最終的に保健・医療・福祉における基礎・応用・開発研究の成果を広く国内外に発信していくことを期待し、育成しています。

保健・医療・福祉の現場での諸問題について探究や保健福祉学の更なる発展のために、高度専門職業人として学際的に課題解決にあたることのできる人材、実践と研究を継続して行っていくことができる人材、その中でも熱意あふれる方々をお待ちしています。

大学院の特色

「ヒューマンサービス」に基づく領域を超えた学び

本学では、「ヒューマンサービス」をミッションとし、それぞれの専門領域のみならず、総合的な幅広い知識と技術を身につけ、トータルな保健・医療・福祉サービスを提供できる人材の育成に努めており、領域を超えた学びの機会を提供しています。例えば、博士前期課程の必修科目となっている「ヒューマンサービス特論・演習」では、ある事例に対して看護、栄養、社会福祉、リハビリテーションの各領域の学生たちがそれぞれの立場から検討して、意見を交わします。

専門領域の異なる学生との意見交換を通して、1つの問題に対する様々なアプローチや考え方を学ぶことができます。

働きながら学ぶ学生を支援

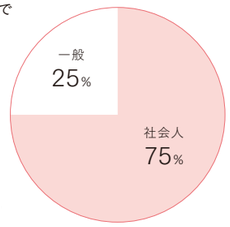
長期履修学生制度（博士前期課程のみ）

職業を有する等の事情により、定められた修業年限（２年）では教育課程の履修が困難な方を対象とした制度です。長期履修学生の授業料は、設定した履修期間に関わらず、原則として標準修業年限の２年分の授業料となります。博士前期課程の学生の約54%※がこの制度を活用して学んでいます。※2023年4月現在 ※休学者を除く

＜授業料納付額例＞

	1年目	2年目	3年目	4年目	修了までの納付額合計
通常の履修	535,800円	535,800円	—	—	1,071,600円
３年間の長期履修	357,200円	357,200円	357,200円	—	
４年間の長期履修	267,900円	267,900円	267,900円	267,900円	

＜社会人特別選抜出願資格で入学した学生の割合（博士前期課程）＞



※2023年4月現在
※社会人特別選抜出願資格とは、社会人として保健・医療・福祉の関連分野で３年以上の実務経験を有するなどの方です。詳細は募集要項をご覧ください。

平日夜間、土曜開講

授業は平日の夜間（午後5時55分～午後9時）と土曜日の昼間（午前9時～午後5時50分）の時間帯を中心に開講されます。主として夏季の休業期間を利用した集中講義なども活用し、働きながら学びたい方にも配慮しています。

学習環境

大学院生は、院生研究室内の個人ブースでパソコンを使用することができ、集中して自習できる環境にあります。

附属図書館は、看護、栄養、社会福祉、リハビリテーション各分野の専門図書や学術雑誌を中心に、関連領域の資料を幅広く所蔵しています。図書や雑誌などの閲覧・視聴覚資料の視聴、データベースが利用できます。

大学院事務室は、平日は20時まで開いており、証明書等の発行や各種申請の受付など、学生生活のサポートをしています。

図書館

大学院事務室

博士前期研究室

博士後期研究室

博士前期課程 助産実践コース

これまでの学部教育の実績を活かして

令和6年度入学生から大学院博士前期課程にて助産師教育を開始します。

晩婚化・晩産化によるハイリスク出産の増加や、家族形態の多様化による家庭内でのメンタルヘルスや乳幼児虐待などの問題が深刻化しています。本助産実践コースではこの様な社会環境の変化に対応し、周産期に限らず、生涯にわたる幅広い世代への性と生殖に関する健康と権利を支援できる高い能力を有する助産師を養成します。また、多職種と連携し、大学のミッションであるヒューマンサービスの実践ができる助産師を輩出します。

助産実践コースの概要は次のとおりです。

1	設置年月日	令和６年４月１日	
2	課程の名称	助産実践コース	
3	修業年限	２年	
4	入学定員	５名以内	
5	修了要件	２年以上在籍し、共通科目13単位以上、修士論文に代えて看護課題研究を含む専門科目48単位以上、合計61単位以上を履修	
6	学位	修士（看護学）	
7	取得資格	助産師国家試験受験資格	
8	入学試験	試験日等、詳細が決まり次第ホームページでお知らせします。	
9	その他	助産師国家試験受験資格を取得するための実習があります。また専門科目は、平日の昼間に授業が行われる場合があります。	

本学と連携のあるオーストラリアニューカッスル大学の助産師の大学院生の研修を受け入れました。

大学院の特色について

保健福祉学研究科 副研究科長
水戸 優子

対面とオンラインのハイブリッド型授業

本学大学院は、より高度な対人サービス・ケアの知識・技術・態度の育成のために、教員と学生、学生と学生が直接会って対面で学ぶ授業を大切にしております。一方で、働きながら学ぶ学生や遠方から通う学生が授業に参加しやすいように、オンライン授業が可能な通信環境・設備を整備しております。この両方の授業のよいところを活かすために、横須賀キャンパスの教室とオンライン授業を組み合わせたハイブリッド型授業やハイフレックス型授業を導入しています。

博士前期課程

看護領域／栄養領域／社会福祉領域／リハビリテーション領域

取得できる学位

修士（看護学）	Master of Nursing Science	修士（栄養学）	Master of Nutrition & Dietetics
修士（社会福祉学）	Master of Social Work	修士（リハビリテーション学）	Master of Rehabilitation Science

教育理念

少子高齢社会の進展に伴い、療養・介護期間の長期化への対応や在宅ケアの拡充と質の向上、利用者本位のサービス提供の基盤づくりなどの課題が増大しており、高齢期においても住み慣れた地域で質の高い生活を送れるような保健・医療・福祉の連携した取組みが求められています。

このようなニーズに応えるため、本学大学院博士前期課程では「保健・医療・福祉の連携と総合化を念頭に置きつつ、これらを全体的に理解するとともに、各学問領域の専門性を深める教育・研究の推進」を目的として、保健・医療・福祉にかかわる広い理解をもってそれぞれの分野と連携・協力をめざすことのできる高度専門職業人を育成することを目標にしています。

教育目標

01 保健・医療・福祉の諸問題について、現場で実践した内容を体系的に整理し、社会へ発信できる能力を持つ人材の育成

02 行政・施設・地域などの現場において、リーダーまたは管理者として活躍できる人材の育成

03 現場で働く社会人を受け入れ、実社会で身につけた実践的な知識・経験を学問的に検証しつつ、さらにこれを高めていく人材の育成

アドミッション・ポリシー

01 人や人を取り巻く社会に関する深い理解を求め、保健福祉学の探求に自ら取り組む意欲のある人

02 専門職や当事者と協働し、各種システムと連携して、課題を解決し、評価する能力を高めたい人

03 保健・医療・福祉の課題を、科学的・論理的に研究するための基礎的な能力を備えている人

04 地域社会の保健・医療・福祉分野のリーダー、管理者または教育者として貢献する意欲のある人

※さらに領域毎に具体的なアドミッション・ポリシーを定めています。

入学者選抜試験では、以上の観点に立って、筆記試験においては専門知識などを、面接選考においては課題解決へ向けて意欲的に研究に取り組もうとする力を、総合的に評価します。

学位取得までの流れ　博士前期課程

	時期	修士論文・課題研究論文	
1年次	4月	●入学	履修計画相談 指導教員の希望
	5月		
	6月		研究課題決定
	7月～3月		研究計画立案遂行
修了年次	4月	●研究倫理審査（必要に応じて）	↓
	5月	●研究計画発表会	↓
	6月～9月	中間発表会（領域ごとに開催）	修士論文の作成
	10月		↓
	11月	●論文審査申請	↓
	12月		↓
	1月	●修士論文の提出 ●最終試験	
	2月		
	3月	●論文発表会 ●修了	

※看護領域のCNSコース（課題研究論文）は、取扱いが異なります。
※大まかな流れとなりますので、詳細については別途お問合せください。

教育カリキュラム

保健・医療・福祉の現場で得た知識・経験を学問的に検証するとともに、理論化していく力を身につけることができるカリキュラムとなっています。また、実践の場において、リーダーや管理者として活躍できるような学びを得られる科目を設定しています。

共通科目

基幹科目

全員必修となっており、保健・医療・福祉の実践・研究を進めるにあたり、ヒューマンサービスというより広い視点からそれぞれの専門性を見つめ直します。（ヒューマンサービス特論・演習）

基礎科目

研究課題を探求し、修了後も研究的な視点で課題解決に取り組んでいくことのできる基礎的な能力を培うことを目的とした科目です。（研究法Ⅰ、Ⅱ）

連携科目

保健・医療・福祉の各分野の枠にとらわれない幅広い知識を習得し、他分野との連携・協働を図ることのできる能力を育成するための科目を設けています。

政策・行政（保健福祉行政特論）
自治体などの行政機関で保健・医療・福祉に関連する政策立案などを担当する人材を想定した科目

管理（人事管理・育成論）
保健・医療・福祉に関連する施設などの管理・運営を担当する人材を想定した科目

地域（ケアマネジメント・地域ケア特論）
地域に根差し、在宅介護等の保健・医療・福祉サービスの提供を行う人材を想定した科目

専門連携（コンサルテーション論）
専門職間の理解と連携を学ぶことを狙いとした科目

＋

専門科目

看護領域の専門科目

科目例　看護管理学・政策特論、ウィメンズヘルスケア特論、慢性看護学特論、地域看護学特論、精神保健看護学特講 など

看護CNSコースの専門科目　日本看護系大学協議会において高度実践看護師教育課程の承認を受けて、がん看護と小児看護のCNSコースを設置しています。
科目例　がん看護学特論Ⅰ～Ⅳ、小児看護学特論Ⅰ～Ⅴ など

助産実践コースの専門科目　助産師国家試験受験資格を取得するコースを設置しています。
科目例　助産学概論、助産基礎特論Ⅰ・Ⅱ、助産診断技術特論Ⅰ～Ⅲ、助産実践演習Ⅰ・Ⅱ、助産学実践実習　など

栄養領域の専門科目

科目例　人間栄養学、臨床栄養学特論演習、栄養ケア・マネジメント特論 など

社会福祉領域の専門科目

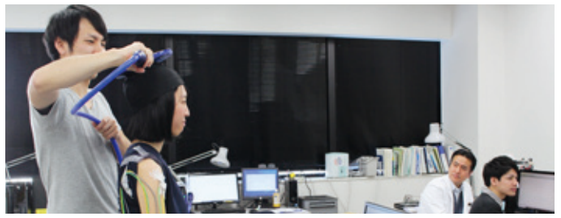
科目例　社会福祉原論、児童福祉特論、障害者福祉特論、ソーシャルワーク特論Ⅰ～Ⅳなど
○「認定社会福祉士」研修受講について　社会福祉領域では、「認定社会福祉士」研修認証科目の一部を受講することが可能です。

リハビリテーション領域の専門科目

科目例　○理学療法学　運動機能制御学特論、臨床理学療法学特論 など
○作業療法学　生活障害作業療法学演習、機能障害作業療法学特論 など

＋

専門科目（共通）　修士論文を作成します。研究指導は指導教員1名と指導補助教員1名の計2名があたります。



実験中

授業風景

学生からのメッセージ

自分の考えを言語化するトレーニング 新人看護師の指導にむけて

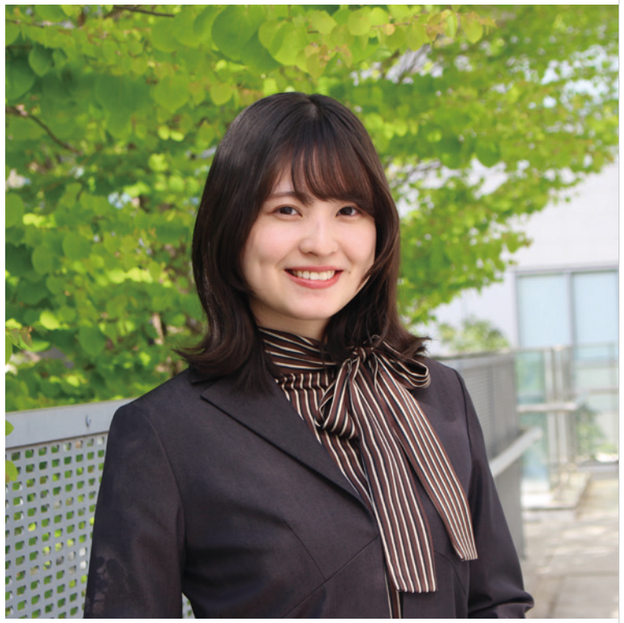
現在、総合病院で勤務していますが、同期は認定看護師などのスペシャリストを目指したり、主任として管理職に進んだりする中で、自分はどのように看護師として働いていきたいのか、もう一度学生として自分ができることを見つめ直したいと思い、本学への入学を決めました。病院では、新人看護師の指導に関わることが多く、大学院でも新人看護師の指導について研究をしていますが、修了後は新人看護師の指導はもちろん、実習臨床指導者として病院を訪問する学生もサポートしていきたいです。大学院では、自分の思いや考えを言語化することを多く求められますが、言語化することが苦手だった私にとっては、ディスカッションが多く行われる日々の授業がとても良いトレーニングになりました。特にコンサルテーションの授業は、領域を超えて多くの学生が履修するので、他領域の学生とも交流を深めることができ、他領域を知る良い機会となりました。私は夜勤ありのフルタイムで働きながら通学をしていますが、先生方には仕事との両立にご配慮いただき、学業のサポートをしてくださるので、とても心強いです。

看護領域 大須 美貴さん

エビデンスに基づいた栄養管理を学び 臨床現場のリーダーとなることを目指して

大学４年生の頃、私は学部を卒業した後に病院で働くか進学するか悩んでいました。そんな中、臨地実習先の病院で、現状の栄養管理に満足せず、論文や学会発表から常に新しい知見を得て、積極的に日常の臨床業務に取り入れる管理栄養士の先生方に感銘を受けました。日々、科学は進歩しており、私たちは専門職としてそれに適応する責任があります。私は研究活動の必要性を改めて実感し、「論文を正確に読み解く力をつけたい」「自らの関心をエビデンスに基づいた形で世界に公表できるようになりたい」と強く感じました。私は今、研究の基礎を身につけるべく、毎日研究室に通っています。自身の研究活動はもちろんのこと、ティーチングアシスタントとして学部の授業に携わり、講義では多領域の学生を交えたディスカッションを通じて、自らの専門領域を超えた幅広い学びを実践しています。落ち着いて学ぶことのできる充実した環境の中で、日本の栄養学を牽引する先生方と深い関係を築き、多種多様なキャリアを持つ学生と共に切磋琢磨する日々は何ごとにも代え難い貴重な経験です。

栄養領域 吉川 日菜子さん



修了生からのメッセージ

自分の世界を広げてくれる場所

私は本学の学部卒業生で、卒業後も実習指導などで繋がりを持ち続けていました。現場での悩みを先生にご相談した際、大学院という選択肢があることを教えていただき、慣れ親しんだ県立大学の大学院への入学を決めました。

在学中は、重症心身障害のある人との共同決定（意思決定支援）について、相談支援専門員に焦点を当てた研究に取り組みました。大学院での学びを深めていくうちに、自分の中でモヤモヤと抱いていたことについて、それを言い表せる概念が増えました。それによって、物事の見え方が変わってきたように感じます。特に印象に残っている授業である「ヒューマンサービス特論・演習」は、他領域の方たちとのグループワークが沢山あります。それなりにエネルギーは必要ですが、刺激的な授業でした。

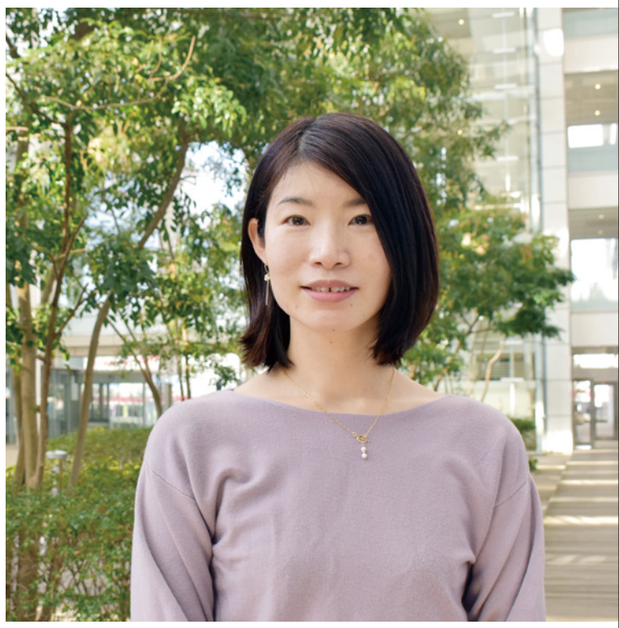
本学の大学院は、先生方が院生の個別状況に合わせて柔軟に対応して下さることが多くあるように思います。仕事との両立でも助けられました。院生にも色々な人たちがいて、そこから刺激をもらったり、励まされたりしました。大変な壁もきっとあると思いますが、自分の世界を広げてくれる場所なのではないかと思います。

社会福祉領域 小野 達也さん

障がいの有無に関係なく 誰もが自由に楽しめるよう貢献したい

脳卒中を経験された方がモデルとなるファッションショーの運営に関わった際に、生き生きと変化していく脳卒中患者の方の姿を目の当たりにしました。「なぜこのような変化が起きたのか？何か臨床に活かせる糸口があるのでは？」と思い、それを研究で明らかにしたいと考え、見よう見まねで研究をしてみましたが、研究手法などの知識がなく、分からないことばかりでした。そんな時に、元同僚でもある本学の先生からお誘いいただき、研究を基礎から学びたいと思い入学を決めました。入学前は勉強に苦手意識があり不安でいっぱいでしたが、一歩踏み入れると毎日が充実していて、あっという間の2年でした。私の研究では、ファッションショーに参加した女性の脳卒中患者の方の語りを聞き、どのように心理・行動が変化したのかという分析を行いましたが、大学院の「研究法Ⅰ・Ⅱ」の授業ではその研究に必要な基礎知識や研究手法を学ぶことができました。また、多くの人に伝えるには、物事を見たいように見るのではなく、常に客観的な視点を持ち続けることの大切さも学生生活を通じ、学ぶことができました。今後は、本学で学んだことを活かして知見を深め、障がいの有無に関係なく誰もが自由に楽しめる世の中になるよう、貢献していきたいです。

リハビリテーション領域 金原 衣理子さん



博士後期課程

取得できる学位　博士（保健福祉学）　Doctor of Philosophy in Health Services Research

教育理念

急激に進行する少子高齢社会等の到来を見据え、「保健・医療・福祉にかかわるヒューマンサービスの今日の実践・明日の実践・未来の実践を牽引し、先導することに資する教育・研究の推進」を教育理念として掲げています。

この教育理念に基づき、本教育課程においてヒューマンサービスの実践を「看護学」「栄養学」「社会福祉学」「リハビリテーション学」の観点から学際的に探究する対人援助の学問に取り組み、ヘルスケアとソーシャルケアの有機的連携を基盤とした科学的研究成果を産出することを目指します。

教育目標

01 保健福祉分野に関わる深い見識を備え、ヒューマンサービスの実践に対する倫理観と使命感をもって、サービスやケアの開発とその効果検証、保健福祉人材の育成や政策提言、健康寿命の延伸等に寄与する研究に取り組む研究者を育成する

02 保健福祉分野の諸問題について学際的かつ国際的な視点で現象を整理し、研究成果を活用できるとともに、ヒューマンサービスの実践を先導できる教育者を育成する

03 保健福祉分野の専門的知識や科学的根拠をもって多職種間のマネジメントや連携と総合化を牽引するとともに、研究能力を発揮して実践現場に変革を起こすことができる実践者を育成する

アドミッション・ポリシー

01 人や人を取り巻く社会に関する深い理解を求め、保健福祉学の発展に貢献する意欲のある人

02 保健・医療・福祉の課題を、科学的・論理的にかつ多角的に研究するための基礎的な能力を備えている人

03 専門職や当事者と協働し、各種システムと連携して、課題を解決する素養を備えている人

04 地域社会の保健・医療・福祉分野のリーダーまたは管理者、教育・研究者、政策立案者として貢献する意志のある人またはそのようなキャリアパスを期待されている人

入学者選抜試験では、以上の観点に立って、主要論文及び今後の研究計画についてのプレゼンテーションにより専門知識などを、面接選考においては課題解決へ向けて意欲的に研究に取り組もうとする力を、総合的に評価します。

学位取得までの流れ　博士後期課程

	時期	博士論文	
1年次	4月	●入学	指導教員の希望
	5月		
	6月		研究課題決定
	7月		
	8月		研究計画立案・遂行
	9月		↓
	10月		↓
	11月	●研究中間報告会	↓
	12月		↓
	1月～3月	●研究計画発表会	↓
2年次	4月		↓
	5月	●研究計画の審査申請	↓
	6月	●研究倫理審査（必要に応じて）	↓
	7月		↓
	8月		↓
	9月		↓
	10月		↓
	11月	●研究中間報告会	論文の作成
	12月～3月		↓
3年次	4月		↓
	5月		↓
	6月		↓
	7月		↓
	8月		↓
	9月	●論文予備審査用論文提出	↓
	10月		↓
	11月	●博士論文審査申請書提出	↓
	12月		↓
	1月	●論文提出 ●最終試験	
	2月		
	3月	●論文公開発表会 ●修了	

※大まかな流れとなりますので、詳細については別途お問合せください。

教育カリキュラム

保健・医療・福祉分野において、新たなサービスやケアの開発、保健人材の育成や政策提言など、この分野の発展に寄与し、実践現場に変革をもたらす研究成果を産出する力を身につけることを目的としたカリキュラムを設定しています。

保健福祉共通科目

保健・医療・福祉の全体的な理解と総合連携の基盤になる理論・考え方、システムについて学びます。

科目例　対人援助特論（必修）、サービス評価研究特論、多職種連携システム開発演習など

保健福祉専門科目・保健福祉演習科目

保健福祉専門科目では、専門領域を科学的にとらえ、研究を推進するための知識や能力を獲得します。また、演習科目では、専門科目の学びを自らの専門性や研究テーマに関連づけ、より実践的に研究能力を高める内容を演習スタイルで学修します。

科目例
- ○看護系　成長発達期健康看護特論、療養期健康看護演習 など
- ○栄養系　食品健康科学特論、保健福祉栄養評価演習 など
- ○社会福祉系　医療社会福祉実践・政策特論、日英高齢者福祉政策論演習 など
- ○リハビリテーション系　リハビリテーション病態解析学特論、リハビリテーション認知学習行為学演習 など

保健福祉研究科目

博士論文を作成します。研究指導は、指導教員1名と指導補助教員の2名により行い、指導補助教員のうち1名は、指導教員と異なる専門系で、博士論文の指導を担当できる教員があたります。

授業風景

研究発表会

修了生からのメッセージ

研究生活について

高齢者は我々が何気なくできている応用歩行、例えば花見をしながらのんびり歩く、トイレに早足で駆け込むといった動作が難しくなります。こういった応用歩行を安全にできるようになり、屋外歩行を気兼ねなく楽しんでもらうためには、どのような練習や治療介入が必要になるのかを研究しました。

昼は病院のリハビリテーション科の所属長として組織を管理し、夜は研究ということで、なかなかオンオフの切り替えが難しかったのですが、スタッフが所属長の私を支えてくれたので、両立ができたと思っています。良い実験結果が出ないときや、夜遅くまでの解析作業が続いたときなどは、どうしても疲れや苛立ちが表情に出てしまいがちです。ですが、そんな表情こそ同僚は見ていると思い、心配をかけないためにも、きちんとセルフコントロールしなければと心がけていました。

神奈川県立保健福祉大学に入学を決めた理由は？

理学療法士として臨床と研究は車の両輪のようなものだと以前から思っていました。患者さん一人ひとりをみるのがセラピストの役割ですが、同時に患者さんと接するためのエビデンスを充実させる努力をするのも使命だと感じていて、臨床と研究どちらも進めていきたいと思っていました。

こちらの大学院は夜間の授業もあって、臨床をしながら研究を続けることができるという意味で、私が望んでいる環境に近いと思い、入学を決めました。

リハビリテーション系修了　土田　将之さん

研究科の仲間について

博士後期課程の同期には理学療法士だけでなく、看護師や管理栄養士、作業療法士がいて、私と同じように仕事をしながら研究をしていました。同じ保健医療福祉の現場で働いていますが、職種が違うと全く物の見方が違います。授業の中で、同じ症例を検討していても、多角的な視点からディスカッションをすることができました。ここで学んだことは、日々の臨床業務にも活かすことができています。

学習環境について

マンモス大学に比べると規模はコンパクトなので、他の領域の先生と話がしやすく、メールで先生方への相談も気軽にさせていただきました。ソフト面でも研究に必要な条件が揃っていると思っています。夜間や土曜の授業で社会人にも配慮した大学となっています。大学院事務室が夜遅くまで開いていて、書類提出などいろいろな手続きも対応してくれて、きめ細かな対応をしていただきました。

博士後期課程修了までの3年間の各年次で取り組んだことと、アドバイス

取り組んだこと

1年目		2年目		3年目	
6月頃	指導教授や共同研究者と研究計画の打ち合わせ	4月頃	第1研究のまとめと第2研究の実験スケジュール調整	7月頃	第3研究のまとめと博士論文全体の最終調整
8月頃	研究倫理審査委員会への研究計画書の提出	8月頃	第2研究のまとめと学術誌への論文投稿の準備	9月頃	予備審査用博士論文提出締め切り
1月頃	研究計画の承認を受け、実験開始	12月頃	博士論文中間発表会にて研究の進捗状況を報告	1月頃	最終審査用博士論文提出締め切り

アドバイス

人を対象とする研究の場合、研究倫理審査委員会から研究計画書の承認を受ける必要があります。厳正な審査ですので、修正と再提出の繰り返しで数か月を費やすこともあります。早めの研究計画の作成が重要です。

学術誌への論文掲載は博士後期課程の修了要件となっています。修正と再投稿を繰り返すため、最初の投稿から掲載決定まで半年以上かかる場合があります。早めに準備をしましょう。2年目で博士論文の全体が大まかに完成していることが理想です。

実験スケジュールが押してしまったため9月の締め切りに追われ、連日研究室に泊まり込んで論文を作成しました。体力・精神力をフル動員して乗り切りましたが、仕事と研究の両立が一番大変な時期でした。限られた期間の中で研究成果を出し、それを論文にするのはとても大変な作業です。とにかく早めの準備をすることが、実りある研究生活のために一番大切なことだと思います。

教員紹介

※氏名の下は、博士前期課程の研究指導に関わる教員の研究テーマです。博士後期課程では指導できる内容が異なる場合があります。どちらの課程も出願前相談の際に必ず募集要項を確認してください。
※担当教員及び研究テーマは変更になることがあります。

看護領域（看護管理学）

博士前期課程担当　准教授
渡邊　千登世

看護管理に関する研究／看護師のキャリアに関する研究／看護サービスの質管理に関する研究／看護情報管理に関する研究

看護領域（看護教育学）

博士前期・後期課程担当　教授
宮芝　智子

看護基礎教育に関する研究／看護継続教育に関する研究／看護学生および看護職者の発達の支援に関する研究

看護領域（基礎看護学）

博士前期・後期課程担当　副研究科長・教授
水戸　優子

博士前期・後期課程担当　准教授
加藤木　真史

看護技術、技能の実証に関する研究／ヘルスアセスメント・フィジカルアセスメントに関する研究／基礎看護学に関する研究／看護基礎教育における教授学習方法に関する研究

看護領域（ウィメンズヘルスケア）

博士前期・後期課程担当　教授
村上 明美　谷口 千絵

博士前期課程担当　准教授
田辺 けい子　吉田 安子

妊娠・分娩・産褥・新生児の看護に関する研究／女性の健康と看護に関する研究／セクシュアル・リプロダクティブ・ヘルス/ライツと看護に関する研究／助産師の基礎教育および継続教育に関する研究

看護領域（小児看護学）

博士前期・後期課程担当　教授
川名　るり

博士前期課程担当　講師
西名　諒平

健康問題を抱えた子どもと家族の体験と看護に関する研究／地域で生活する子どもと家族への支援に関する研究／小児看護の基礎教育および継続教育に関する研究／卓越した小児看護実践の言語化

看護領域（慢性看護学）

博士前期課程担当　教授
髙橋　奈津子

博士前期・後期課程担当　教授
間瀬　由記

慢性的に経過する病とともに生活する人の看護や教育に関する研究／成人期にある患者とその家族の療養支援やQOLに関する研究／ベスト・サポーティブ・ケア、緩和ケアに関する研究／補完代替療法に関する研究

看護領域（療養生活支援看護学）

博士前期・後期課程担当　教授
間瀬　由記

博士前期・後期課程担当　准教授
黒河内　仙奈

健康寿命の延伸に関する研究／成人・老年期にある人とその家族の退院・療養・生活支援、地域包括ケア、QOL維持向上に関する研究／エンドオブライフケアに関する研究

看護領域（先端侵襲緩和ケア）

博士前期・後期課程担当　教授
野村　美香

博士前期課程担当　准教授
大場　美穂

博士前期課程担当　准教授
土井　英子

先端治療・侵襲性の高い治療を受ける患者・家族のケアに関する研究／周手術期・救急看護・クリティカルケアに関する研究／がんの診断・治療から終末期に至る療養過程の緩和ケアに関する研究／がん看護、急性期看護に関するチーム医療と継続教育に関する研究

看護領域（地域看護学）

博士前期・後期課程担当　教授
臺　有桂

博士前期課程担当　准教授
高橋 佐和子　中山 直子
松坂 由香里

公衆衛生看護および保健師活動に関する研究／在宅看護・訪問看護および訪問看護師活動に関する研究／地域における保健予防行動および健康教育に関する研究

看護領域（精神看護学）

博士前期・後期課程担当　教授
榊　惠子

精神科臨床看護と精神障害者の地域生活支援に関する研究／精神障害者と看護師の援助関係に関する研究／看護ケアを取り巻くグループダイナミクスに関する研究／援助者、教育者のメンタルヘルスに関する研究

看護領域（看護開発学）

博士前期・後期課程担当　教授
石原　美和

博士前期課程担当　准教授
松永　早苗

看護をめぐる制度・政策に関する研究／地域や病院・施設における看護システム・サービスの開発に関する研究／健康危機管理における看護に関する研究

看護領域（CNSコースがん看護）

博士前期・後期課程担当　教授
野村　美香

博士前期課程担当　准教授
小林 珠実　土井 英子

診断から終末期に至る療養過程における緩和ケアに関する研究／チーム医療・療養の場の移行における連携・調整に関する研究／患者・家族、医療者のストレス対処に関する研究／治療や療養の場の移行期にある患者・家族の意思決定に関する研究

看護領域（CNSコース小児看護）

博士前期・後期課程担当　教授
川名　るり

博士前期課程担当　講師
西名　諒平

卓越した小児看護実践の言語化／子どもと家族の権利擁護、倫理的課題の解決に向けた研究／子どもと家族の看護に携わる看護職の質向上に関する研究／子ども・家族・医療機関・学校間などの連携・調整に関する研究

看護領域（助産実践コース）

博士前期・後期課程担当　教授
谷口 千絵

博士前期課程担当　准教授
田辺 けい子　吉田 安子

助産実践の課題解決に向けた研究／性と生殖に関する健康と権利に関連する当事者の支援に関する研究／助産実践における医療・福祉の連携・協働に関する研究／エビデンスのある助産実践を創出するための基礎的研究

栄養領域

博士前期・後期課程担当　研究科長・教授
鈴木　志保子

競技選手への競技力向上のための栄養サポートに関する研究／子どもの発育・発達に関する研究／生活習慣病の予防に関する研究

栄養領域

博士前期・後期課程担当　教授
田中　和美

保健指導及び重症化予防の栄養改善に関する研究／介護予防のための栄養改善に関する研究／認知症と栄養ケアに関する研究

教員紹介

※氏名の下は、博士前期課程の研究指導に関わる教員の研究テーマです。博士後期課程では指導できる内容が異なる場合があります。どちらの課程も出願前相談の際に必ず募集要項を確認してください。
※担当教員及び研究テーマは変更になることがあります。

学生募集要項は
大学Webサイトを
ご覧ください。

栄養領域
博士前期・後期課程担当 教授
倉貫 早智
日本型食生活の有効性に関する研究／食品の機能性を活用した生活習慣病等の代謝改善に関する研究／若年女性の食生活改善に関する研究

栄養領域
博士前期・後期課程担当 教授
五味 郁子
入院患者・在宅療養者の栄養管理に関する研究／高齢者の栄養管理に関する研究／栄養ケアの倫理に関する研究

栄養領域
博士前期・後期課程担当 教授
向井 友花
疾病の予防・改善に役立つ食品や食品成分の探索およびその分子機構に関する研究／食品衛生管理（調理施設における微生物制御）に関する研究

栄養領域
博士前期・後期課程担当 教授
村越 智
栄養投与ルートが腸管免疫・肝免疫に与える影響に関する研究／高度外科的侵襲時においても生体防御能を維持するための栄養投与法に関する研究／運動およびアミノ酸関連物質を用いた侵襲時の生体防御能改善に関する研究

栄養領域
博士前期・後期課程担当 教授
山西 倫太郎
ビタミンA（レチノール）による細胞抗酸化誘導について解析する／免疫機能およびアレルギー感作に対するビタミンAの影響について解析する

栄養領域
博士前期・後期課程担当 准教授
駿藤 晶子
AI（人工知能）を用いた食物摂取状況調査の妥当性に関する研究／精神疾患患者の食生活および食意識改善に関する研究

栄養領域
博士前期・後期課程担当 准教授
遠又 靖丈
ヘルスサービスの事業評価（効果評価など）に関する疫学的研究／老化（生活機能低下、認知症など）における栄養学的な予防因子に関する疫学的研究／食事パターンに関する疫学的研究

栄養領域
博士前期課程担当 講師
飯田 綾香
学校における食育の推進に関する研究／肝疾患あるいは腎疾患の栄養療法に関する基礎的研究

栄養領域
博士前期課程担当 講師
片岡 沙織
女性アスリートに対する栄養サポートに関する研究／パラアスリートに対する栄養サポートに関する研究

栄養領域
博士前期課程担当 講師
樋口 良子
嚥下調整食の調理法に関する研究／地域における防災・災害時食支援に関する研究

社会福祉領域
博士前期・後期課程担当 教授
新保 幸男
子ども家庭福祉に関する実践研究・政策研究／社会福祉学理論、ヒューマンサービス理論に関する研究

社会福祉領域
博士前期・後期課程担当 教授
髙橋 恭子
医療福祉、医療ソーシャルワークに関する研究／社会福祉実践の歴史に関する研究

社会福祉領域
博士前期課程担当 教授
玉川 淳
保健医療福祉の連携に関する研究／保健医療福祉人材の確保に関する研究

社会福祉領域
博士前期・後期課程担当 教授
中村 美安子
地域生活継続支援と環境整備に関する研究／住民福祉活動及び活動拠点に関する研究

社会福祉領域
博士前期・後期課程担当 教授
西村 淳
社会福祉の法と制度に関する研究／社会福祉政策に関する研究

社会福祉領域
博士前期・後期課程担当 教授
山本 惠子
日本の高齢者福祉政策の研究／英国の高齢者福祉政策の研究／地域包括支援センターにおける高齢者支援のあり方に関する研究

社会福祉領域
博士前期課程担当 教授
行實 志都子
ピアサポートに関する研究／ソーシャルワーカーのためのキャリアラダーに関する研究／精神障害者の就労支援に関する研究

社会福祉領域
博士前期課程担当 准教授
在原 理恵
障害者の地域生活支援実践の検証を通した基盤理論の明確化に関する研究／障害者の地域生活支援従事者のチーム形成と質の向上に資する対話型組織開発に関する研究

社会福祉領域
博士前期課程担当 准教授
大島 憲子
在宅医療・介護連携及び家族支援に関する研究／認知症施策と認知症ケアの質の向上に関する実践研究

社会福祉領域
博士前期課程担当 准教授
川村 隆彦
ソーシャルワーク理論と実践モデルの研究

社会福祉領域
博士前期課程担当 准教授
福士 貴子
障害福祉に関する研究／日本のソーシャルワーク展開に関する研究

社会福祉領域
博士前期課程担当 准教授
吉中 季子
女性と子どもの貧困に関する研究／困窮者支援に関する研究／社会保障制度と貧困に関する研究

社会福祉領域
博士前期課程担当 講師
種田 綾乃
障害者当事者活動・ピアサポート活動に関する研究／地域精神保健医療福祉に関する調査研究・実践研究

リハビリテーション領域（理学療法学）
博士前期・後期課程担当 教授
菅原 憲一
運動制御機構に関する筋電図学的研究／運動学習に関する電気生理学的研究／各種動作および動作障害に関わる筋電図学的研究

リハビリテーション領域（理学療法学）
博士前期課程担当 教授
仙波 浩幸
精神障害者における身体的リハビリテーションに関する研究／精神障害者における理学療法評価に関する研究／身体活動が精神障害者の精神機能へ及ぼす影響に関する研究

リハビリテーション領域（理学療法学）
博士前期課程担当 准教授
内田 賢一
呼吸理学療法の作用機序に関する研究／高齢者の身体活動量に関する研究／理学療法士を目指す学生の職業適性に関する研究

リハビリテーション領域（理学療法学）
博士前期課程担当 准教授
島津 尚子
片麻痺者のバランス・歩行に関する研究／切断者のリハビリテーションに関する研究

リハビリテーション領域（理学療法学）
博士前期・後期課程担当 准教授
鈴木 智高
二重課題法による歩行中の注意需要評価に関する研究／歩行制御および姿勢制御に関する研究／随意的筋弛緩時の運動制御に関する電気生理学的研究

リハビリテーション領域（理学療法学）
博士前期・後期課程担当 准教授
平瀬 達哉
慢性疼痛を抱えた地域高齢者の転倒予防に関する研究／フレイルと疼痛の関連性に関する研究／生活期リハビリテーションの効果検証に関する研究

リハビリテーション領域（理学療法学）
博士前期課程担当 准教授
藤田 峰子
臨床における物理療法機器の安全管理に関する研究／尿失禁に対する電気刺激療法の有効性に関する研究

リハビリテーション領域（作業療法学）
博士前期・後期課程担当 教授
笹田 哲
小児領域の作業療法に関する研究／対象者の役割やＱＯＬに関する研究／人間作業モデルの評価、介入に関する研究

リハビリテーション領域（作業療法学）
博士前期・後期課程担当 教授
奥原 孝幸
精神障害領域における作業療法に関する研究／精神障害者のリハビリテーションに関する研究／認知行動療法を用いた臨床実践的研究

リハビリテーション領域（作業療法学）
博士前期・後期課程担当 教授
白濱 勲二
脳損傷者・高齢者における運動・認知機能に関する研究／上肢機能訓練に関する研究／リハビリテーションの効果に関する研究

リハビリテーション領域（作業療法学）
博士前期課程担当 教授
玉垣 努
リハビリテーション工学に関する研究／ハンドリング技術の分析研究／アフォーダンスに関する研究／中枢神経障害に関する研究

リハビリテーション領域（作業療法学）
博士前期課程担当 准教授
長山 洋史
作業療法の効果と費用効果に関する研究／レセプトデータ，カルテデータなどの臨床データ分析

リハビリテーション領域（作業療法学）
博士前期課程担当 准教授
渡邊 愛記
乳がん患者およびサバイバーの精神的健康に関する研究／脳血管障害患者の生活動作支援システムの開発および研究

リハビリテーション領域（作業療法学）
博士前期課程担当 講師
小河原 格也
神経生理学的手法を用いたリハビリテーションに関する研究／高齢者の作業療法に関する研究

共通分野
博士前期・後期課程担当 教授
津田 学
栄養ゲノミクスおよび栄養遺伝学を用いた研究／ショウジョウバエの飢餓応答に関する研究／ショウジョウバエを用いた脂質代謝の研究

共通分野
博士前期・後期課程担当 教授
木村 芳滋
線虫を用いた慢性疾患の発生機序に関する研究／線虫を用いたストレス応答に関する研究／線虫を用いた生体分子の局在イメージングに関する研究

共通分野
博士前期・後期課程担当 教授
成 耆鉉
昆虫生体の透明化技術開発／アメリカミズアブの飢餓超耐性の分子機構の研究／ショウジョウバエー生まるごと記録装置の開発とその応用

共通分野
博士前期・後期課程担当 教授
深沢 和彦
インクルーシブ教育の推進に関する研究／教師の指導行動と児童生徒の適応感に関する研究／学級集団づくり及び教員組織づくりに関する研究

共通分野
博士前期・後期課程担当 准教授
生田 倫子
家族に関する心理学の基礎・実践研究／臨床カウンセリングの基礎・実践研究／組織のコンサルテーションに関する実践研究

共通分野
博士前期・後期課程担当 准教授
城川 美佳
小児の健康リテラシーに関する研究／在日外国人を対象とした感染症に関する情報提供のあり方に関する研究／路上生活者における健康概念に関する研究

共通分野
博士前期課程担当 准教授
志村 華絵
白血病細胞の分化増殖抑制に関する研究／貧血の病態生理に関する研究／高齢者と幼児の世代間交流が両者に及ぼす影響に関する研究